

野生植物の分布や変異を調べる上で、標本は欠かすことのできない「実物付きデータ」とも呼べるものです。当館でも、今年の4月以降、3件の植物標本のコレクションをご寄贈いただきました（8月時点、登録日基準）。

谷口みなみ氏からは、大学院在籍時の研究で採集された、シソ科タツナミソウ属の標本17点をいただきました。このように研究で使用した標本を「証拠標本」といい、後の研究者が結果を再検討する際に重要になります。

丸岡道行氏からは、宍粟市や神崎郡に自生する、自然度の高い山中の植物、水生植物、希少性の高い植物など、標本約380点をいただきました。（写真1）丸岡氏は兵庫県植物誌研究会の会員で、10年以上前から標本を寄贈いただいています。

望月譲二氏からは、兵庫県のハチクの標本53点をいただきました。（写真2）これまでもタケ・ササ類の標本をご寄贈いただいておりますが、今回は全て花付き、それも小花にタケ類てんぐ巣病菌Aciculosporium takeの分生子座が生じているものです。Mycoscience誌から出版された論文の証拠標本にもなっています。

植物が好きな若手は一昔前より減っていますが、セミナーや展示を通して、植物が好きになってもらえるきっかけを作っていければと思います。

李 忠建（系統分類研究グループ）



写真1 兵庫県のヤブミョウガの標本



写真2 てんぐ巣病菌の寄生したハチク標本

「博物館を楽しもう！」

を合言葉に、フロアスタッフは、お客様に一番近い存在として、様々な業務に携わっています。クイズを交えて展示室を楽しく紹介する「展示解説」（写真3）、大きなスクリーンでご覧いただくスタッフ手作りの「デジタル紙芝居」（写真4）は、フロアスタッフのメインのイベントです。

また、土日祝日に行うイベントの企画・運営も、季節や企画展などに関連して行っています。（写真5）幼児から大人の方まで博物館を楽しんでいただけるようにフロアスタッフ一同日々業務に励んでいます。みなさまのお越しをお待ちしております。詳しくは、本館ホームページのイベントスケジュールでご確認ください。



写真3 展示解説「ボルネオジャングルツアー」



写真4 デジタル紙芝居「六甲のうりんぼ」



写真5 ワークショップ「とっても簡単化石のレプリカづくり」



価値の手直し展

価値に気づく、
モノの見方。

アップサイクルから
見つめる
モノと人の豊かな関係

価値の手直し展

2025.2.15(土) - 5.31(土) 本館2階 企画展示室



廃タイヤ



カバン(写真1)



折れたバット



株式会社兵左衛門

箸(写真2)



タンバリン



upcycle interior

時計(写真3)

“もったいない”から生まれる価値

アップサイクルとは、捨てられるはずだったモノに、アイデアやデザイン、ストーリーを加えることで新たな価値を持つモノに生まれ変わらせることを目指す取り組みです。素材の原料化と再利用であるリサイクルと区別して、「創造的再利用」と呼ばれることもあります。

一例として、廃棄されるタイヤを使ったカバンや財布(写真1)、折れたバットからつくられたお箸(写真2)、閉校備品のタンバリンからできた時計(写真3)などが挙げられます。

本企画展では、こうしたさまざまなアップサイクル品を多数(40~50点を予定)展示することで、それぞれどのようにして価値が上がっているのかを紹介します。

価値が高い?低い?

アップサイクルと対比される言葉に「ダウンサイクル」があります。

アップサイクルが価値が高いものに生まれ変わるのに対して、ダウンサイクルは元のものよりも価値が低いものに生まれ変わることを指します。

具体的には、古くなったシャツを雑巾にすること、穴が開いた靴下を靴磨き用の布として使うこと、使い古した服の一部を切り取り、穴のあいた箇所裏地に充てることなどがダウンサイクルの例として挙げられます。

このように、新しい製品や使用価値を生み出したものの、結果として元の製品よりも価値が下がってしまう場合にダウンサイクルと呼ばれ、価値が上がっている場合にアップサイクルと呼ばれています。

捨てられるはずだったモノに創造的なアイデアで「価値」を加え、新たなモノを生み出すアップサイクル。

ところで、この「価値」とはいったい何でしょうか。

本企画展では、アップサイクルというテーマを掘り下げ、一度は価値がないと考えられていたモノでも、発想の転換や創造的なアプローチによって新たな価値を付与(価値を手直し=re:value)できることを紹介します。

アップサイクルをきっかけに、生活の中でモノとのより豊かな関わり方を見つめ直す機会となれば幸いです。

しかしながら、このアップやダウンといった価値は不変でしょうか。

例をみながら、考えてみましょう。

小学校を卒業したあとにランドセルを別の製品に作り変えるサービスがあります。入学時にランドセルを買ってくれた祖父母への、お返しにすると喜ばれるようです。

これは作り変えた製品が持つ実用的な機能やランドセルという素材の良さ以上に、孫が6年間使っていた、というモノの持つきわめて個人的な経験が祖父母にとって価値のある要素となっています。

表面に付いた傷や何度も教科書を出し入れたときにできた擦れ跡は、むしろその価値を高めてくれるはずです。ほかの子が使っていたランドセルではそうはいきません。

このように、価値があるかないかの判断は個人や状況によっても変わります。アップサイクルのものづくりを考えると、誰にとってより価値があるか、を想像してみることが、より高い価値を生み出すための重要な要素の1つとなりそうです。

できることをやってみる機会に

アップサイクルの取り組みは、まず「もったいない」ものに目を向けること、知ることから始まります。自分には難しいと感じるでしょうか。実は多くのアップサイクル商品が、最初は小さな実践から始まっています。

企画展の開催期間中には、アップサイクルを体感できるワークショップやイベントを多数企画しています。アップサイクルをより身近に、そしてワクワクしながら取り組めることを感じてもらいたいです。アイデア次第、工夫次第で価値を生み出すことができること、身のまわりに宝の山が眠っていることに気づくヒントがあるかもしれません。

WORK SHOP & TALK

増えすぎたシカとどう向き合う? ~里山のいまとこれからについて~

ゲスト: 林利栄子氏

2025年2月22日(土)

(午前)10:30~12:00 (午後)13:00~14:30

里山のいきものと人のかかわりについて、生態学の専門家と猟師を交えて、シカをテーマにお話します。(受講料にジビエの試食代が含まれます)



定員: 15名

場所: 人と自然の博物館 4F実習室

受講料: 1,500円



予約はこちらから

はかせと学ぼう! おやさいくレヨンってなあに?

2025年2月16日(日) 13:00~、14:00~

2025年3月16日(日) 13:00~、14:00~

親子向けの体験イベント、おやさいくレヨンを使ったお絵かき体験です。



定員: 各回5組

場所: 人と自然の博物館
2階企画展示室

受講料: 無料

申込方法: 事前予約なし・当日受付

—— and more...